

2019 年度第 5 回日本地球化学会理事会

日時：2020 年 5 月 27 日（水）16:00-19:00

ZOOM 開催

出席者：鍵 裕之，益田 晴恵，南 雅代，板井 啓明，奈良岡 浩，張 勁，川口 慎介，薮田 ひかる，服部 祥平，原田 尚美，角皆 潤，福士 圭介，鈴木 勝彦，大野 剛，寺田 健太郎，高野 淑識，日高 洋，浅原 良浩，土岐 知弘，太田 充恒，飯塚 毅，横山 哲也，角野 浩史，小畑 元（地球化学編集長），蒲生 俊敬（監事），山本 鋼志（監事）

審議事項

1. 今年度の総会の ZOOM 開催および総会案内の文面（総務幹事—資料 1a,b）

総会を 9 月 15 日（火）に ZOOM 開催することが提案され，承認された．さらに，オンライン開催の通知はハガキにより行い，参加希望者のみに会議の URL とパスワードを通知すること，オンライン開催するにあたっては 500 名程度が参加可能なプランを用意すること，議長は庶務幹事が担当することが承認された．

2. 今年度の年会開催について

2.1. 今年度の年会開催・セッションについて（企画幹事—資料 2a-g）

弘前年会の現地開催は来年度に順延すること，受賞講演，夜間集会を今年 9 月にオンラインで開催することが承認された．一般講演については，審議の結果オンライン開催を 11 月以降に開催することとなった．これに向けオンライン開催 LOC を組織することが承認された．

2.2. 年会の地質学会との共同セッションについて（年会幹事—資料 2h）

地質学会が順延したことを受け，地質学会との共同セッションも来年度の弘前年会まで順延することとなった．

3. 国際対応について

3.1. 今年度年会の国際セッションの取りやめについて，及び 2021 年以降の国際セッション（国際対応委員長—資料 3a）

今年度の日中シンポジウムの中止がメール審議で決定した．また，中国側との協議の結果，日中シンポジウムを 2021 年度に中国開催，2022 年度に日本開催とする提案があり，承認された．

3.2. Goldschmidt 日本開催候補の 2026 への延期について（国際対応委員長—資料 3b）

2024 年度 Goldschmidt 日本開催に向けて，代表幹事と国際対応委員長が中心となって開催場所の 3 候補をリストアップした（インテックス大阪，京都国際会館，仙台国際センター＋東北大学川内萩ホール）．しかし，5 月 18 日に Geochemical Society から Goldschmidt 2020 がバーチャル開催になったことを受け，2024 年はシカゴ開催で日本開催はなくなったことが伝えられた．そこで，2026 年の日本開催を招致することを目指して準備する可能性について提案された．総会などでより多くの意見を集め，年会が赤字になった際の負担の責任など

を調べた上で、引き続き審議を続けることとなった。

4. 学会賞・功労賞・奨励賞の選考について（学会賞選考委員長—資料 4a-c）

以下の受賞候補者が提案され、承認された。

学会賞：石川剛志会員—沈み込み帯を中心とした流体・物質循環に関する地球化学的研究、

奨励賞：西田梢会員—実験生物学と同位体地球化学により環境生態指標として生物起源炭酸塩を利用する研究、功労賞：紀本岳志会員—研究現場が必要とする観測機器の開発を通じた海洋と大気地球化学への貢献。

5. 名誉会員推薦報告（名誉会員推薦委員長—資料 5）

松久幸敬会員と田中剛会員の 2 名が名誉会員として推薦され、承認された。これまでに名誉会員はすでに 9 名おり、2 名が加わったことにより計 11 名となった。これは理事会で承認された『名誉会員数は会員数の概ね 1%程度ないしは 10 名以内におさめる』とする名誉会員の選考規約とは合致しないが、候補者 2 名の甲乙が付け難く、両名とも名誉会員に相応しいと考えられることから承認された。さらに、選考基準の規程の上限人数の変更やジェンダーバランスの記載追加などについて今後議論することとなった。

6. 鳥居・井上基金応募要領の変更について（南—資料 6）

規程の変更：鳥居基金から鳥居・井上基金になった際に、海外渡航への補助は認めないこととなったが、応募者の人数が減ったことをうけ、再び海外渡航への補助を認めるように変更することが提案された。上限を 10 万円として、他経費との合算も認めることとした。さらに、交付申請書の改訂案も提案され、承認された。応募要領については今後詳細をつめることとした。また、助成を受けた場合については、学会ウェブサイトやニュースに掲載すること、論文の謝辞などへの記入を推奨することが確認された。

7. JpGU-AGU 2020 のオンライン出展について（広報幹事—資料 7）

3 万円でオンライン出展することについて提案がなされ、承認された。出展内容については広報委員会で詰めることとなった。

8. 年会開催についてのアンケート実施（将来計画委員長—資料 8）

今年度の年会開催についてアンケートを実施することが承認された。アンケート内容については、理事会の審議内容を踏まえて修正することとなった。

9. 国際文献社との業務委託契約書の確認（庶務幹事—資料 9a-c）

業務委託契約書の内容について確認され、承認された。また、覚書の 4 ページ目の 4(2)保管料にある『保障料込』の記載を消去することとなった。

10. 会員および会費規程の修正案（資料 12）

資料 12 のように学生 3 年バックの新設、会費規程の修正について提案され、承認された。また、吉池雄藏会員と落合正宏会員の 50 年会員表彰が認められた。

報告事項

10. 倫理綱領・ガイドラインワーキンググループ（資料 10）

ワーキンググループのメンバー交代したこと、倫理綱領について会員 ML、学会ホームページでの縦覧を行なったが、特に意見は寄せられなかったことが報告された。本倫理綱領に修正を加え、次回以降の理事会で承認後、総会に提案することとなった。

11. 会計幹事報告（資料 11a,b）

会計の収支状況、会費支払いを口座自動振替で行うことを推奨すること、2020 年度の会費請求の流れを添付資料 11a の様に行うことが報告された。また、寄付金申込書の案が示された。

12. 会員幹事報告（資料 12）

会員数の動向、会費の未納状況についての報告があった。

13. 広報幹事報告（資料 13a,b）

資料 13 にしたがって 1-5 月の活動報告がなされた（資料 13a）。また、JpGU-AGU2020 オンライン出展に関するアンケートの回答結果が報告された（資料 13b）。

14. GJ 報告（資料 14）

Geochemical Journal の編集状況が報告された。また、Geochemical Journal の Vol. 43, No. 4 から Web of Science に情報が載っていないことが判明し、修正依頼がなされたこと、Most Downloaded Paper Award を新たに設けることが報告された。

15. 和文誌地球化学報告（資料 15）

編集状況と発刊予定が報告された。

16. 庶務報告

Goldschmidt 2020 の Principal Co-sponsor として 50 万円を支出したこと、日本学術振興会の育志賞の推薦を応募したが募集がなかったことが報告された。

17. その他：Goldschmidt 2020 についての情報が共有された。また、今年度年会の趣意書に記載されていた年会 LOC のメールアドレス 2020LOC@geochem.jp にメールを送信するとエラーで返ってきてしまうことが判明したため、宛先を南代表幹事・企画・庶務幹事に設定することとなった。